

2011年6月24日

東北大学との共同研究で早発性2型糖尿病の重要なゲノム異常を発見

糖尿病患者数は、わが国で800万人以上、予備軍を含めると2000万人にも及ぶと推察されている国民病であるが、これまでの数多くのSNP(一塩基遺伝子多型)研究では、発症リスクが最大でも1.4倍程度と非常に低いものしか発見されていなかった。

東北大学大学院医学系研究科 代謝疾患医学コアセンター・片桐秀樹教授、分子代謝病態学分野・岡芳知教授、DNAチップ研究所 CNV ラボラトリー・江見充部長らの共同研究チームは、高頻度に第4番染色体4p16.3領域におけるコピー数の減少を発見した。この異常により糖尿病の発症リスクは1.4倍以上に上昇することが判明した。

共同研究グループは、35歳未満で2型糖尿病を発症した日本人100人と、60歳以上で糖尿病の診断歴がなく家族にも患者がいない健常者100人を比較。この結果、第4染色体の一部領域で、遺伝子コピー数が減少する異常が糖尿病患者群の13人から発見された。糖尿病ではない人では1人しか見つからなかった。

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2011/06/press20110623-01.html>

[詳細 \(プレスリリース本文\)](#)

この研究成果は、国際専門誌 [Experimental Diabetes Research 誌、Volume 2011 \(2011\)](#) に掲載された。

本件問い合わせ先：(株) DNA チップ研究所 ゲノム医学グループ 石井美穂

Tel: 045-500-5217